

松原苑訪問リハビリテーションの取り組み ～在宅でのリハビリの実際～

松原苑
訪問リハビリテーション
3学会合同呼吸療法認定士
理学療法士
安達 健太郎

大船渡施設



- ・介護老人保健施設気仙苑
【入所定員】152名
- ・気仙苑デイ・ケアセンター
【通所定員】75名



- ・地ノ森クリニック
- ・気仙訪問看護ステーション
- ・気仙指定居宅介護支援事業所
- ・大船渡市在宅介護支援センター
- ・気仙苑訪問リハビリテーション
- ・ケアプランセンター気仙
- ・サポートセンター「鷗」

高田施設



- ・介護老人保健施設松原苑
【入所定員】190名
- ・松原苑デイ・ケアセンター
【通所定員】45名



- ・松原クリニック 透析センター
- ・松原クリニック 訪問診療部
- ・松原訪問看護ステーション
- ・松原指定居宅介護支援事業所
- ・松原苑在宅介護支援センター
- ・松原苑訪問リハビリテーション

Medical Corporation SHOKYUKAI

リハ部門の業務内容



- ①入所リハビリテーション
- ②通所リハビリテーション
- ③訪問リハビリテーション
- ④訪問看護ステーション
- ⑤気仙地域リハビリテーション
広域支援センター



当苑訪問リハビリの関わり方

心がけている事

- ・個々の目標を明確にする事
目標を具体的にし、援助の糸口を見つける
- ・多職種が連携をして関わる事
医師、看護師、薬剤師、ケアマネ、栄養士、介護士など他職種連携を大切にする
- ・家族、本人、多職種へ評価・助言を伝え共同してリハビリを行うこと
一緒に考えながら、日常生活の維持、低下の防止を心がける

ポイント

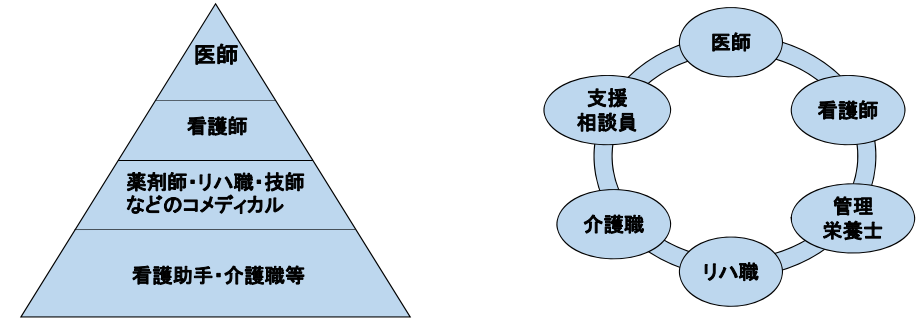
機能訓練ではなく、**生活リハビリ**を考える

がんのリハビリテーション

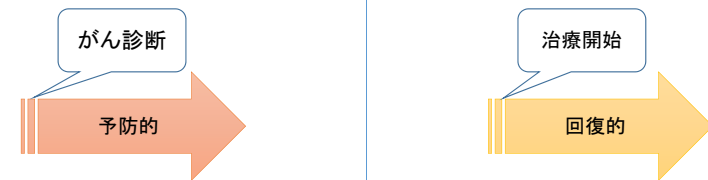
- ・患者さんの残っている能力の維持・向上、今までと変わらない生活を取り戻すことを支援することによって、患者さんの生活の質を大切にしようとする考え方に基づいて行われます。がんのリハビリは、がんと診断されたときから、あらゆる状況に応じてリハビリが行われています。

老健の訪問リハビリの強み

- ・単独型事業所と比べて併設型事業所の方が多職種と連携が取りやすい
- ・多職種協働でピラミッド型の医療保険型ではなくドーナツ型の介護保険型



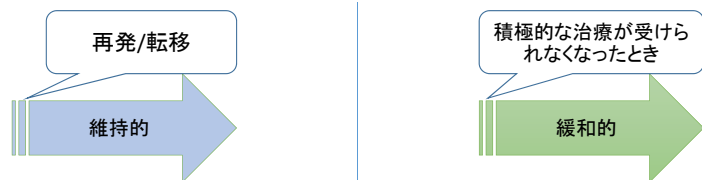
治療や療養の時期におけるがんのリハビリ



がんと診断されてから早期に開始。手術や抗がん剤、放射線治療の前に行い、機能障害の**予防を目的**とします。

機能障害や筋力や体力の低下がある患者さんに対して**最大限の機能回復**を図ります。

治療や療養の時期におけるがんのリハビリ



がんが増大し機能障害が進行しつつある患者さんに**運動能力の維持や改善**を試みます。自助具の使用や動作のコツを考えたり、筋力低下の予防などを行います。

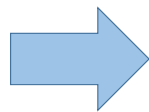
患者さんの要望を尊重しながら、身体的、精神的、社会的にも**生活の質を高く保てるよう**に援助します。

訪問リハビリテーションの実際

ケース①

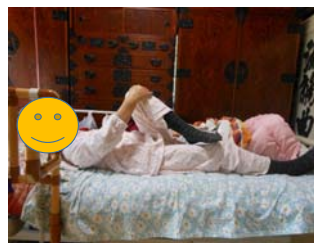


ベッド上生活

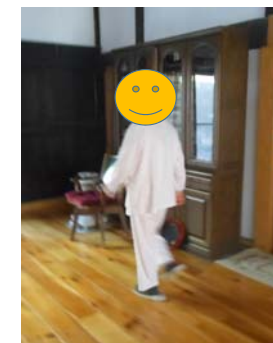
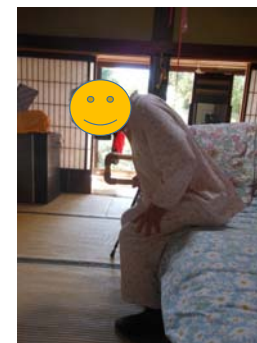


居間に来てお茶飲み

ケース②



疼痛緩和の為の
自主訓練指導

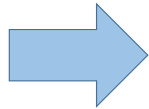


日常生活の範囲
の拡大

ケース③



介入時(H25.4)
ベッド上生活



介入後(H28.9)現在
自家用車に乗って買い物へ行く
庭の手入れをしている